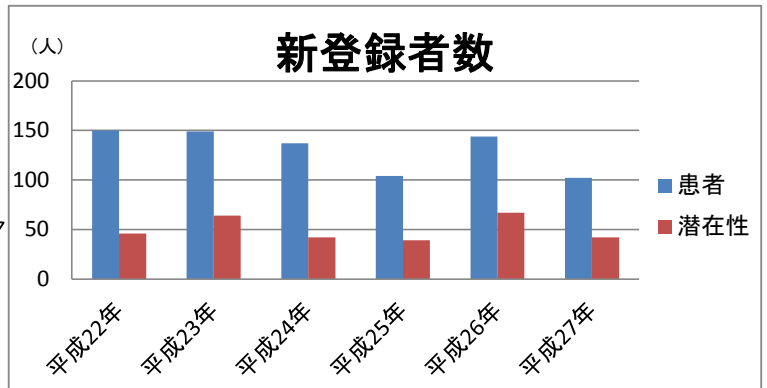


平成27年練馬区の結核の状況

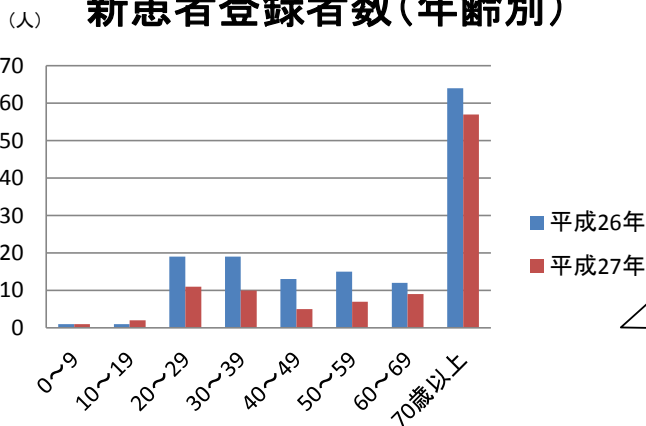
〈結核対策の状況〉

患者は平成25年まで徐々に減少し、平成26年は患者・潜在性結核を含め増加しましたが、平成27年には患者・潜在性結核を含め減少しました。

平成27年新規登録患者 102名
 ・肺結核塗抹陽性患者 30名
 ・その他の結核患者 72名
 平成27年新規潜在性結核感染症患者 42名



新患者登録者数(年齢別)



患者数は70歳以上の割合が高く、高齢者の結核対策は重要な課題となっています。高齢者の症状は典型的な咳、痰のような症状ではなく、体重減少や活気の無さといった一見結核とはわかりにくい症状で現れることが多いです。

しかし、毎年20代から60代までの世代の患者数も万遍なくおり、横ばいの状況にあります。



【トピックス1】診断の遅れ(平成27年)

「診断の遅れ」は特に高齢者に多く、若い世代にも万遍なくあります。

発見の遅れ(年代別)	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	計
【受診の遅れ】 発病~初診2か月以上	0	0	0	2	0	1	5	8
	0%	0%	0%	25.0%	0%	12.5%	62.5%	100%
【診断の遅れ】 初診~診断1か月以上	1	2	1	2	1	6	4	17
	5.9%	11.8%	5.9%	11.8%	5.9%	35.3%	23.5%	100%
【発見の遅れ】 発病~診断3か月以上	0	0	0	2	0	2	4	8
	0%	0%	0%	25.0%	0%	25.0%	50.0%	100%

診断が遅れると、肺結核の病状が進行し、結核菌を含んだ咳や痰を排菌するようになります。そうすると、周囲の方への感染のリスクが高まり「接触者健診」も大規模に発展することがあります。患者本人も、他の人に感染させる恐れがある場合や症状が重い場合は、入院治療が必要となります。しかし、早期に発見し治療につながれば、外来での治療が可能です。

以上の点から、診断の遅れをなくすることが重要です。また、健診から結核が発見される若い方も増えています。定期的に健診(胸部X線検査)を受けることや要精密検査の指示・症状がある場合、適切な診療科(呼吸器科)へ受診することが早期治療にもつながりますので、早期発見・早期受診の周知をお願いします。

* 接触者健診：結核を発病している人や感染している人を早期に発見するため、患者さんの家族や身近な人を対象に行う健診。

【トピックス2】外国人登録者の分析（平成27年）

国籍	人数
中国	6
韓国	2
フィリピン	2
マレーシア	1

平成27年
新規登録外国人患者 11名

- ・肺結核塗抹陽性患者 1名
- ・その他の肺結核患者 4名
- ・肺外結核 2名

近年、国際化の進展により外国人の患者が増加しています。
言葉や習慣の違いがあるため、服薬治療の必要性を正しく理解してもらい、治療中断をしないように保健所が支援しています。必要に応じて、東京都の通訳制度を利用し支援してる方もいます。

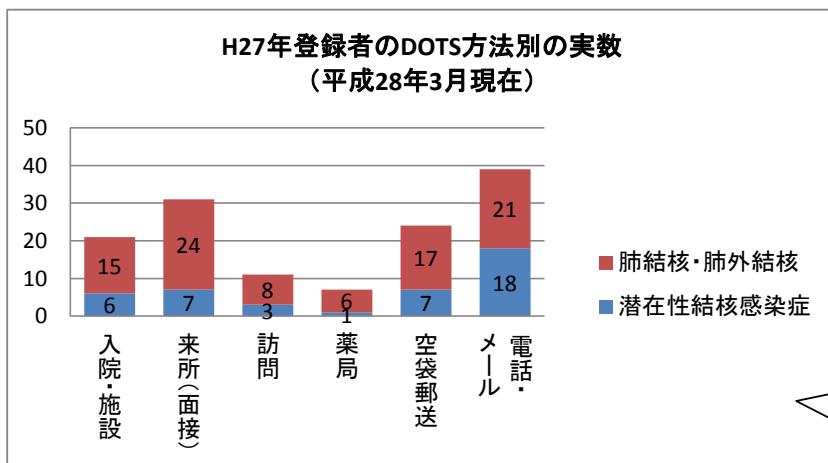
ドッツ

DOTS（直接服薬確認療法）とは？



患者の治療完了率を高め、再発予防に努めることは結核対策において重要な柱です。そこで大切になるのは確実に抗結核薬を一定期間服薬することです。結核治療中の患者様が服薬を忘れてしまったり、中断してしまうことのないように、お一人おひとりに合わせた方法で、服薬確認を行う服薬支援をDOTSといいます。また、保健所がDOTSを行うことで、患者様の状況や検査結果などを把握したり、患者様との信頼関係を築いていくことにもつながります。

それぞれの方に合わせたDOTS方法



地域DOTSでは、患者さんと保健所との相談により、外来時や訪問、面接、電話、手紙などの方法で個々の状況に合わせた服薬支援を行っています。

病院や施設に入所している高齢者の方は、入所先でDOTSをし、保健所が確認しています。
服薬した薬の空袋を薬局に持参し、確認してもらう方もいます。
在宅の介護サービスを利用している方には、関係者の協力を得ながら支援しています。

患者様にDOTS支援を実施した感想を聞きました！

20代男性 外国人
1回/月 薬局DOTS

学生で、経済的な事情から交通費のかからない、病院近くの薬局で服薬確認ができたので助かりました。薬剤師さんも親切で最後まで治療終了できたと感謝しています。



60代 男性
1回/月 訪問DOTS（独居）

自宅まで来て、服薬状況を確認してくれて、「そこまでやってくれるのか」と思った。患者のことを思って、訪問してくれているんだと感じた。言葉では保健師に言わなかったけど、感謝していた。



さいごに・・・

保健所は、高齢者世帯の方や精神疾患のある方、服薬支援者のない方を中心に薬局や在宅の介護サービス事業所などの協力を得てDOTSを行っています。また、就労や通学で日中保健所の支援を受けることが困難な若い世代は、薬局DOTSを導入することが多くなっています。

今後、介護サービスを利用されていない方等については、訪問DOTS看護師など新たな支援の導入を検討し、最後まで服薬が完了できるように、地域の様々な関係者の協力を得ながら支援していきたいと思っております。

関係機関のみなさまと、より一層連携を強化していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

発行：練馬区保健所保健予防課 感染症指導係

電話03(5984)4671